Life ・Culture & Welfare
地域から発信　福祉を文化へ

Our Life 133 号

静岡福祉文化を考える会
代表　平田　厚
〒424-0841　静岡市清水区追分 3-5-17
NPO 法人泉の会内 Tel054-367-2878 Fax: 054-367-2884
編集委員
藤下品子　古屋貴彦　河野惠介　平田厚

＊内　容＊

➢ 25 周年の節目の 2020 年度は、コロナ禍の厳しい地域社会とともに ……P.1
➢ 「調査報告」と「ご近所福祉かるた」をもとに「第３回公開型研修会」開催 ……P.2
➢ 「ご近所福祉その意識と実態調査報告」シリーズ❷……P.3
➢ 2021 年度「第１回公開型研修会開催案内」「事務局日誌拝見」「編集後記」 ……P.4

25 周年の節目の 2020 年度は、コロナ禍の厳しい地域社会とともに
3つの活動基調に基づき、“ご近所福祉”を発信し、2021 年度に繋ぐ

コロナ禍の厳しい地域社会とともに、25 周年の節目の 2020 年度は「つながるご近所の再構築　決め手は一体何か　ご近所福祉の復活　―近助とは何かを探る―」を活動テーマに掲げて取組んできた。

改めて、本会の原点を振り返ると、阪神淡路大震災発生１年後、学会からの要請で「第１１回学会現場セミナー」（２日間）を浜松市で開催するにあたり、静岡県内関係者６０名程が開催実現に向けて運営に関わり、故初代学会会長　一番ケ瀬康子氏が、震災政府復興委員のお立場から、「福祉文化を拓く―阪神大震災の経験をとおして―」（この講演内容は、その後、一番ケ瀬康子著「福祉文化へのアプローチ」ドメス出版に紹介されている）の「基調講演」の熱い思いに学び合った関係者が、静岡に福祉文化を拓こうと、約４０名が賛同し平成８年９月結成し、ここに、２５年目の節目の活動となった。「災害と福祉文化」を追求する「地方発福祉文化の創造」に取り組む市民活動集団ともいえる。今、コロナ禍の厳しい社会状況下にあって、災害問題をはじめ、長寿者・子どもの問題にとどまらず、地域社会全体の個人志向化・希薄化と共に、福祉コミュニティ組織運営のあり方も複雑多様化した課題が浮き彫りになっている。

本会は、結成以来２５年間、本会規約に掲げられた、**＊第一「専門性と市民性の融合の関わり」　＊第二「公開型地域総合型学習の企画と実践」　＊第三「課題解決に向けたプロセス重視」**の３つの活動基調をもとに、さらに、つぎの「３つの柱立て」をもとに活動を展開してきた。

＊第１の柱立て「啓発学習事業」「静岡発(地方発)福祉文化の創造」をめざして、県内各地の実践活動に学び「課題提起」をする「地域総合型啓発学習」に取り組んできた。

＊第２の柱立て「調査研究事業」この２５年間、一貫して、その時代の社会問題を検証する目的で、２５種類の調査を県民の協力をもとに取り組み、その結果をその都度、県民と共に地域総合型学習を通じて、課題解決に向けた議論を深め合ってきた。

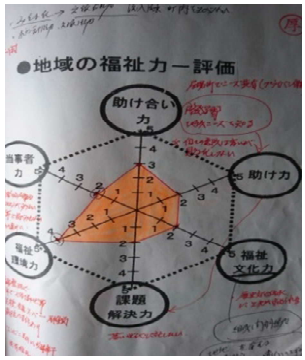
＊第３の柱立て「実践地区活動事業」広く県内各地の実践事例を共有し合い「地域診断」をし、確かな地域性を把握し、さまざまな実践活動を展開しながら、「協働」による福祉問題解決のプロセスの重要性を確認してきた。

令和２年度の本会活動テーマは「つながるご近所の再構築の決め手は一体何か　―ご近所福祉の復活―」（近助とは何かを探る）を掲げ、「地域環境」を再検証するとともに、地域住民一人ひとりが住み慣れた生活圏域である「ご近所の再構築」に向けて英知を出し合うことを働きかけ、厳しい地域社会の状況下「ご近所福祉その意識と実態調査」に取り組むことが出来た。2021年度は、「地域を家庭化する“ご近所福祉”を創る支えあいを探る」を活動テーマに、今年度の活動を踏襲する取り組みを展開したい。

特に、「見える化」「わかる化」した、地域総合型学習（世代間交流）の呼び掛けを、平成２７年度に取り組んだ、長寿者（高齢者）孤立・孤独防止から誕生した「若者発　ご近所福祉かるた」の活用拡大とともに、今年度実施した「ご近所福祉その意識と実態調査結果」から浮かび上がった数々の課題の改善解決に向けた取組みをもって、せめて、家庭機能を生活圏域の地域で構築する“地域を家庭化する”ことを探っていきたい。

2020 年度“ご近所福祉”を総括 「これで安心　私のご近所福祉」

「調査報告」と「ご近所福祉かるた」をもとに、第3回公開型研修会開催



第２回研修会の診断票

２０２０年度 静岡福祉文化を考える会主催「公開型研修会」は、「つながるご近所の再構築　決め手は一体何か　― 近助とは何かを探る ー」をもとに、全３回開催した。

「第１回　私のご近所　これからのご近所を創る」(4/19)は、コロナ感染防止対策により、予定していた「静岡県総合社会福祉会館」が閉鎖されたため、事前に準備した関連資料の配布により、ご近所の現状をそれぞれの地域において検証し問題点を整理した。

「第２回　私のご近所を私が診断し、ご近所福祉を拓く」(6/20)では、［地域診断票］をもとに、それぞれの地域を自己診断するとともに、参加者相互に議論を深めた。

第２回公開型研修会では、改めて、２０２０年度の本会活動のキーワード「ご近所福祉の復活」は、今日、公助・制度で、全て問題解決できる社会であるという認識が今では地域社会に浸透している状況下で、「当たり前の地域づくり」を、今一度「共助の社会の再構築」に置き換えていくことが求められているのではないかを再認識した。

参加者の地域の現状を踏まえて、これからのご近所を創る（診断）」では、参加者の生活圏域の「福祉力」を評価する作業に取り組んだ。「当事者力」「福祉文化力」「たすけあい力」「助け力」「問題解決力」は、今後の課題として、浮き彫りにした。2020 年度を締めくくる、最終回（第３回）の公開型研修会が、令和３年２月１４日（日）に、静岡市葵区駿府町「静岡県総合社会福祉会館で開催した。「着眼項目」は、①「静岡発　福祉文化の創造」をもとに、「ご近所福祉と福祉文化」議論１年をまとめる学びの場　②世代を超えて「ご近所福祉」をテーマに、身近な生活圏域の課題解決に向けた議論の場　③「ご近所福祉その意識と実態調査」結果からの提言を実社会で活かす議論をする場　④「ご近所福祉の社会」実現ためのアイディアを出し合う場　の４つを取り上げた。今回は、特に、県民の協力をいただき実施した「ご近所福祉　その意識と実態調査」結果（７５３名の回答）の分析と考察から、どのようなことが浮き彫りになったかを検証するとともに、これからの地域の支えあいについて、参加者と共に大いに語り合い「これで安心　私のご近所福祉」をめざす展開をした。

「若者発 ご近所福祉かるた」を活用したアイスブレーク

まず、プログラムのスタートは、語れる環境、相互理解を深める「自己紹介」（アイスブレーク）。平成２７年度の製作して「若者発ご近所福祉かるた」を活用し、裏返しの「読み札」を手にして読み札の最近のご近所の状況をもとに、「私のご近所を語る自己紹介」につなげた。単なる自己紹介であると、通り一遍の紹介に終わってしまいがちであるが、身近な生活圏域における、より具体的な状況が、手に取るようで、参加者は、それぞれの地域に置き換え、話題が広がるひと時でもあった。導入部分の「アイスブレーク」は盛り上がり、すでに、参加者によって、本質的な研修会の協議につながり、大いに語れる環境が創られた。 2021 年度の本会活動は、この「かるた」の活用方法をより深め、「見える化」「わかる化」した「地域総合型学習」の取り組みにより「ご近所福祉の復活」につなげることを併せて紹介した。　これまで、５年間の「かるた」の活用が、認知症カフェや、サロン活動、居場所活動における少人数での活用、地域の行事において、子どもから大人まで参加した交流事業、さわやかクラブ定例会での活用等、活用実践事例を紹介した。　さらに、活用範囲を広げる呼び掛けと共に「手引書」の作成検討を提起した。「基調報告：ご近所福祉その意識と実態調査から見えたものは何か」では、「２５周年記念調査研究事業検証報告書」として発行した報告書に基づき紹介し、その課題解決に向けた取組みを今後の活動に発展させることを確認した。

2020年度調査研究活動「ご近所福祉その意識と実態調査報告」シリーズ❷

「協働」重視による「調査研究活動」の発展性を期待

本誌第７６号で、今年度の調査事業「ご近所福祉その意識と実態調査」に関して、調査回収状況（７５３枚　６４．２％回収率）と地区別回収実績（東部１５８枚、中部４７３枚、西部１２２枚）を報告した。

過去に、平成２３年度、平成２８年度取り組んできた「ご近所福祉」に関する調査項目と、今年度（令和２年度）を対比した２つの設問結果の内容を紹介した。一つは、「地域活動参加の呼び掛けについて」（８７％呼び掛けに応じる）、二つ目は、「地域行事参加状況について」（参加している７９％）を報告した。この二つの設問結果は、いずれも、こうした厳しい社会状況下にありながら、前向きな回答結果であることをコメントした。

前号に引き続き、本号から、「調査結果シリーズ」として、「調査報告書」の「第４章 調査のまとめ」を「❷協働重視」「❸地域との関わりの意識考察」「❹地域との関わりの実態考察」「❺地域参加の動向考察」「❻地域環境考察」として順次掲載する。

本会の規約に「会員だけが求心的・閉鎖的に集うのではなく、広く市民に拓かれた活動をめざす」と表明し結成以来２５年間、出来る限り、関係団体等との協働に努めてきた。

これまでの福祉文化実践活動において、

⑴「本会発行の「ＯＵＲ　ＬＩＦＥ」の配信（HP・ブログ）・配布を通じた連携

①日本福祉文化学会　②焼津福祉文化共創研究会　③静岡県コミュニティづくり推進協議会　④県・市町社会福祉協議会　⑤焼津市内地区コミュニティ団体グループ　⑥静岡市ボランティア団体連絡協議会　⑦あしたの日本を創る協会　⑧ふじのくに未来財団

⑵各種助成事業、福祉文化活動等を通じた連携

①静岡県　②静岡市社会福祉協議会　③あしたの日本を創る協会 ④静岡県共同募金会　⑤ふじのくに未来財団　⑥静岡市ボランテイア団体連絡協議会　⑦みずほ教育福祉財団　⑧静岡県コミュニティづくり推進協議会　⑨日本福祉文化学会 ⑩焼津福祉文化共創研究会　⑫静岡県社会福祉協議会

平成２８年度から平成３０年度まで３年間にわたり、住民主体に「港地域ささえあい講座」を開講し、この講座に関わった有志中心に、令和元年度に結成した「焼津福祉文化共創研究会」とは、ここ２年間、活動全体の連携を図りながら福祉文化実践活動に取り組んでいる。

このたび取り組んだ「ご近所福祉その意識と実態調査」については、本会がこれまで２５年にわたり取り組んできた「調査研究活動」を、研究会において、活動の柱立てとして取り組むにあたり、議論を重ね、「ご近所福祉その意識と実態調査」を「静岡福祉文化を考える会」は、県域で実施し、「焼津福祉文化共創研究会」は、焼津市内の研究会管内（中学校区・５，０００世帯）を対象に実施し、県域で取り組んできた、過去の同類調査項目のデータを提供し比較考察することを確認した。

また、「焼津福祉文化共創研究会」は、定例研究会を毎月開催していることから、本会の調査の取り組み等も連動した研究協議をするとともに、データ入力に関する技術的な協議も共有していくこととして、ここまで活動を継続することが出来た。特に、今年度は、７月開催された学会理事会において、日本福祉文化学会のＨＰと本会ブログ及び焼津福祉文化共創研究会ブログとのリンクについて、承認をいただき、８月３日以降、データを常時アップすることが出来が実現でき、アクセス回数が急増している。日常的な福祉文化活動や今年度の調査活動の経過やデータや考察をアップすることが出来た。特に、コロナ禍の厳しい社会状況下にあって、「焼津福祉文化共創研究会」との「協働」により、本会活動２５年の節目に、広く県内外に、「見える化」「わかる化」をもとに、「静岡発　福祉文化の創造」を発信し、本会活動は、今後、身近な生活圏域において発展する基盤を確認した。

●　日本福祉文化学会 HP とリンクした「本会ブログ」のアクセス急増　●

日本福祉文化学会 HP と本会ブログのリンクを承認していただき、8/3 以降、毎日データアップに努めている。協働関係の「焼津港ささえあい講座」「焼津福祉文化共創研究会」と共に、２月１２日現在の状況は、下記の通りである。　https://blog.canpan.info/shizuoka-fukushi/

	港地域ささえあい講座	静岡福祉文化を考える会	焼津福祉文化共創研究会
8月　3日	１１，214	885	3,543
２月 12 日	22, 934（＋11,720)	16,486(＋15,601）	22,048（＋18,505）
（延べ 198 日）	１日約 59 件	１日約 79 件	１日約 93 件

●ぜひ、ご参加ください。２０２１年度　本会全体会（第１回公開型研修会）
テーマは「ご近所福祉その意識と実態からの課題提起を探る」

本会活動２５年間のプロセスから、2020 年度の「ご近所福祉その意識と実態調査」結果・考察をこれからの地域づくりにいかにつなぐかを参加者同士で検証します。

＊期　日：令和３年５月 22 日（土）13:30～16:00　　**参加費:無料　定員:20名**

＊会　場：〒424-0841 静岡市清水区追分３－５－１７　寄ってっ亭」(054-367-2878)

＊内　容 (1) 基調報告①「この2020年を振り返る　２６年目への挑戦・ご近所福祉の意義」

(2) 基調報告②「若者発　ご近所福祉かるたの誕生」

(3) 円卓トーク「ご近所福祉を創り出すコツ」

○参加申し込み・問い合わせ：〒425-0041焼津市石津751-1 静岡福祉文化を考える会　代表　平田厚　TEL&FAX054-624-1924

事務局日誌拝見(12/19 ～ 3/25)

12/12「第２１回（１２月）焼津福祉文化共創研究会定例研究会」開催（調査データ分析作業協議）
12/19 焼津市港第１４自治会第１２町内会歳末たすけあい事業協力 「OUR　LIFE　１３２号」発送作業
1/10　2021 年度共同募金助成申請書に関する確認事項の問い合わせ有　　調査報告書執筆作業後,入稿
1/16 「第２２回（ １月）焼津福祉文化共創研究会定例研究会」開催（調査報告会の企画について）
1/26　2021 年度共同募金助成申請書に関するヒアリングに出席し、来年度の活動計画を説明する
2/10　「令和２年度　２５周年記念調査報告書」納品
2/14　第２０４回委員会開催　第３回公開型研修会開催
「第２３回（2月）焼津福祉文化共創研究会定例会」開催（2021 年度計画検討）
2/27　第 31 回日本福祉文化学会全国大会沖縄大会開催
2/28　焼津福祉文化共創研究会主催「第２回公開型研修会」開催（調査報告）　学会ブロック活動引き継
3/31　２０２０年度活動総括

●福祉文化実践活動をご一緒にしませんか。

「静岡福祉文化を考える会」は，阪神淡路大震災(1995) 翌年度の平成 8 年 9 月 1 日に発足し，2020 年度に 25 年の節目を迎えました。さらに、「静岡発　福祉文化の創造」が定着していけるように努力してまいります。

本会の活動基調は，「専門性と市民性の融合」「公開型地域総合学習の企画と実践」「課題解決に向けたプロセス重視」のもと，さまざまな分野で活動している会員が，地域社会全般の課題解決に向けて市民の視点で活動をしています。

◇　会費：社会人 3,000 円　大学生以下 1,000 円

◇　問い合わせ：420-0841 静岡市清水区追分 3-5-17
NPO 法人泉の会内　静岡福祉文化を考える会事務局
Tel054-367-2878　Fax: 054-367-2884

編　集　後　記

厳しい２５周年節目の 2020 年度であったが、新しい地域課題を無視することなく、広く県民に呼びかけて、何とか３回開催出来た「公開型研修会」、学会全国大会静岡大会から１９年の歩みを続けてきた「福祉文化研究セミナー」は、学会中部東海ブロック研修会を兼ねて開催することとした。　本会結成以来、その年度の地域課題を調査テーマに、今年度は「ご近所福祉その意識と実態調査」に取り組み、若者の長寿者訪問から学んだご近所福祉検証プロセスを章立てに組み入れ「２５周年記念調査報告書」として発行出来た。 2021 年度も,ささやかでも「静岡発 福祉文化」を発信していきたい。